

素材を実感的に理解することを意図した 「幼児の造形表現（保育内容の指導法）」の実践

－和紙と水糊による「Dried drawing」の体験を中心に－

川口奈々子

(奈良教育大学 非常勤講師)

吉岡千尋

(奈良芸術短期大学 非常勤講師)

竹内晋平

(奈良教育大学 美術教育講座 (美術科教育))

Teaching Practice in “Artistic Expression in Early Childhood” with the Aimed at Realistic Understanding about
Materials for Children’s Modeling Activity:
Focusing on “Dried drawing” Using Japanese Paper and Glue

Nanako KAWAGUCHI

(Part-time Lecturer, Nara University of Education)

Chihiro YOSHIOKA

(Part-time Lecturer, Nara College of Art)

Shimpei TAKEUCHI

(Department of Fine Arts Education, Nara University of Education)

要旨： 幼児の造形活動において、素材が果たす役割は重要であると考え。本研究は、「保育内容の指導法」における実践的な題材を扱った授業実践を通して、受講者が素材を実感的に理解するための方法を明らかにすることを目的としている。レッジョ・エミリア市の幼児教育実践等を概観することによって、素材先行の活動の意義を明確にした上で「保育内容の指導法」において紙を扱った素材体験（「Dried drawing」の技法を含む）を通じた指導を行った。事後に収集した受講生による自由記述の分析からは、紙についての素材理解にとどまらない幅広い「素材に関する見方・考え方」の習得が示唆された。

キーワード： 素材 Materials for Modeling Activity in Kindergarten
実感的理解 Realistic Understanding
保育内容の指導法 Methods of Contents of Childhood Care
和紙／水糊 Japanese Paper / Glue

1. 序

幼児期における豊かな素材経験は重要であると考え。一般的に、幼児の発達を促すためには「能動性の発揮」、「発達に応じた環境からの刺激」等が必要であることが指摘されている¹⁾。そのための環境を設定する方途として、表現活動において多種多様な素材にふれて遊んだり感覚を働かせたりすることの教育的効果は高いといえよう。平成 29 年に改訂された幼稚園教育要領では、素材について多数言及されている。領域「表現」の「内容」(5)に関連して「素材に関わる多様な体験は、表現の幅を広げ、表現する意欲や想像力を育てる上で重要である」²⁾と記述されているように、様々な素材にふれることは幼

稚園教育の中でも重視されるべき要素であることが示唆されている。このような背景をもとに、本研究では幼児教育における造形活動での素材の役割を踏まえ、幼稚園教育の現場で活用できる実践的な題材の演習を通して将来の保育者が素材を実感的に理解するための方法、およびその効果を明らかにすることを目的とした。

このため、第 2 章においては、幼児教育における造形活動のタイプを 2 つに分類する。そして幼児の造形活動において素材として紙を扱った先行研究の動向、またレッジョ・エミリア市の幼児教育実践における紙の扱い等の事例を分析する。第 3 章では本学授業「幼児の造形表現」において、和紙を使った「Dried drawing」という技法を用い、将来の保育者となる大学生を対象に授業実践を行うこととする。

なお、本研究推進にあたり研究の立案・考察・論文執筆・原稿校閲は川口・吉岡・竹内の三者が行った（執筆分担／第1・3章：川口、第2章 第1・2節：竹内、第2章 第3節：吉岡、第4章：三者による共同執筆）。第3章でとり上げる本学での授業実践は、第1筆者である川口が2018年度に担当する本学の授業科目において行い、その考察等は三者の協議によって行った。

2. 幼児教育における素材の位置づけ

2. 1. 『幼稚園教育要領』（平成29年改訂）における素材に関する記述

文部科学省ウェブサイトに掲載された『幼稚園教育要領解説』（PDF版）³⁾を利用して、「素材」の語句検索を行うと44件がヒットした。「素材」が記述された箇所は領域「表現」について解説された章・節のみではなく、幼稚園教育の基本的内容に関して論じた総説等においても繰り返して「素材」について言及されている。このように多数かつ広範囲で述べられていることから、幼稚園教育における育ち・学びの質は「素材」のあり方から影響を受けることが示唆されていると解釈できる。

領域「表現」の章・節における記述に目を向けると、[内容]（5）に多様な素材に親しみふれること自体が「表現」に関わる具体的活動を通して指導されるべきものとして位置づけられていることがわかる（表1）。特に造形活動においては、表したい主題が先にあってそれに応じた素材を選択して表現するというタイプの活動（以下、「主題先行の活動」と記述）もあれば、素材と出会ったり親しんだりすることによって主題が生成されて表現するタイプの活動（以下、「素材先行の活動」と記述）もある。換言すれば、素材は手段的な役割のみではなく素材そのものが活動を成立させる役割を担う場合も存在するといえる⁴⁾。[内容の取扱い]（3）に示された「表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫する」（表1）という視点からも、表現の過程においては素材との出会いが活動の中心となる可能性を考慮しなければならないといえよう。

表1 幼稚園教育要領（平成29年3月改訂）における素材に関する記述例⁵⁾（下線は筆者による）

[内 容]
（5）いろいろな <u>素材</u> に親しみ、工夫して遊ぶ。
[内容の取扱い]
（3）生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な <u>素材</u> や表現の仕方に親しんだり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

2. 2. 幼児の造形活動において素材としての紙について論じている先行研究の動向

幼児教育および保育者養成に関する先行研究の中で、素材の扱いとその教育的効果等について論じたものは多数ある。それらのうち具体的に素材としての紙を中心に取り上げたものについて検討を行い、本研究の位置づけを明らかにしたい。

本節でとりあげる先行研究群の中でも比較的早期に発表されたものとしては、佐藤諒による「紙製作材料の基礎知識（幼児のための教材研究）」^{6)～13)}がある。この一連の研究は、1964年から1965年にかけて『幼児の教育』誌に連載された幼児教育における素材論で、紙の特性・技法等を含めた教材研究が8報にわたって紹介されている。その後、田中陽子が1972年に発表した「幼児の造形活動における紙の可能性(1)」¹⁴⁾では、紙を物質的に考察するとともに紙の加工法や用具等についても詳細かつ包括的に述べられている。とりわけ、紙を使用した工作的な造形に関する記述や題材例が幅広く取り上げられていることが特筆される。これら、佐藤や田中による研究では、幼児を対象に紙工作を指導する前提となる知識や概念が詳細に述べられている反面、紙にふれたり操作したりすることによってどのような育ち・学びにつながるのかという論点や保育改善につながる視点には、あまり力点が置かれていないようである。

一方で、近年の幼児造形における素材・紙に関する研究では、保育者養成のカリキュラムの中で保育者を目指す大学生が紙を扱うための力量形成・素材理解という文脈で論じられているものも散見される。鈴木安由美の研究¹⁵⁾においては、保育者養成の授業でモビールを紙でつくる実践が示され、その経過について報告がなされている。また、斐珉卿による研究¹⁶⁾では、幼児の遊び素材としての紙の有効性を中心に取り上げ、大学生が実際に「紙遊び」をしたり教材研究を行ったりすることの意義について論じられている。そして堀舘秀一による研究¹⁷⁾では、保育者を目指す大学生が紙素材の可能性について考察する「体験的素材考察活動」¹⁸⁾を授業内で展開することについて提案がなされている。堀舘の研究では、具体的な紙工作の教材紹介を中心とした活動ではなく、様々な感覚を働かせて大学生たちが紙を感じ、紙を理解することを重視した授業展開となっている点が特徴的であり、他の先行研究群とは質を異にしている。

以上、先行研究の概観を試みたが、管見の限り筆者らの問題意識に近いのは堀舘による研究である。感覚を働かせながら素材を理解することは保育者養成における重要な学びであると考え。身近でありながら幅広い特性をもつ紙を実感的に理解した上で保育内容を構築することは、幼児にとっての心豊かな造形活動につながるのではないだろうか。

次節では、さらに幼児教育における素材としての紙のあり方に着目し、海外（イタリア、レッジョ・エミリア市）

での教育実践事例を取り上げる。先導的な幼児教育において紙が造形活動の素材としてどのように扱われているのかについて検討を試みたい。

2. 3. レッジョ・エミリア市の幼児教育実践における紙の位置づけ

本稿においてレッジョ・エミリア市の幼児教育実践に着目する経緯として、筆者らのうち竹内と吉岡は 2017 年 8 月に同市に所在する教育関連施設であるローリス・マラグツィ国際センターを訪問し、様々な素材が並べられたアトリエを視察している¹⁹⁾。そこでは同市に所在するクリエイティヴ・リサイクリング・センター「レミダ」²⁰⁾から提供された産業や芸術活動の廃品と考えられる素材に加えて、乾燥した植物や石等の自然物がテーブル等に美しく展示されており、一部は制作途中であった。型でくり抜かれた端切れの紙束は、形のユニークさからイメージが膨らむ廃品だった事を記憶している。そこで本節では、比較的入手しやすい日本語の文献『驚くべき学びの世界－レッジョ・エミリアの幼児教育』²¹⁾および『子どもたちの 100 の言葉－レッジョ・エミリアの幼児教育実践記録』²²⁾を取り上げ、これら 2 冊の中から、「見出しや本文中の説明等から紙が素材として扱われていると判断される題材」、「掲載された写真から紙が素材とし

て扱われていると判断される題材」を抽出した（表 2）。

その結果、5 つの題材を抽出することができたが、本研究が特に参照すべきであると考えた題材は、表中に示す「白、白、白」の紙ナプキンを用いた素材先行の活動である。「ナプキンは白く、軽く、柔らかく繊細で、触るとわずかにざらざらしています。重なった状態では光をぼやかしますが、広げるとほとんど透明になります」²³⁾と説明されているように、紙ナプキンは様々に変容する素材である。紙という多くの特性を持つ素材に触れ、子どもたちの心が動き探究が始まる点に着目して保育内容を構築する事が大切である。その他にも素材先行の活動として、表中に示すように紙の隠された特性を探究する題材以外にも、質感や色合いを探究するために紙を素材の 1 つとして用いる題材が掲載されている。

一方で主題先行の活動としては、アイデアを具体的にするための水車等の模型づくりや、木の幹の大きさや構造を考える上での手がかりを紙によってつくる題材が見られた。

このように断片的ではあるがレッジョ・エミリア市の幼児教育実践例の中から、紙の特性が多岐に渡ることを見出すことができた。とりわけ本節では、同市で実践された紙を用いる素材先行の活動から示唆を得たと考えている。これまでの議論を踏まえて次章では、「保育内

表 2 レッジョ・エミリア市の幼児教育実践における紙を扱った題材の例

題材名	題材の概要等	所収
「黒はすべての色からできている（白色のすべて）」	<p>【使用されている素材】 紙、布等（詳細不明）</p> <p>【活動のタイプ】 素材先行の活動</p> <p>【活動内容】 様々な種類の黒色（又は白色）の素材を準備し、黒色（又は白色）の中に知覚能力を働かせ、グラデーションを感じ取りながら手と目で探究し、構成する。</p>	佐藤学監・ワタリウム美術館編（2011）、『驚くべき学びの世界－レッジョ・エミリアの幼児教育』、東京カレンダー、pp.110-115.
「白、白、白」	<p>【使用されている素材】 紙ナプキン</p> <p>【活動のタイプ】 素材先行の活動</p> <p>【活動内容】 日常的に使用されている素材について、変容させたりしながら、見立てや意味付けを行う。また、構成した作品を並べ、拡張し再結合する。</p>	同上書、pp.116-119.
	<p>【使用されている素材】 羊皮紙、プラスチック、チュール等</p> <p>【活動のタイプ】 素材先行の活動</p> <p>【活動内容】 様々な種類の白色の素材を準備し、触れたり、選んだりしながら並べ、構成する。</p>	同上書、pp.120-121.
「いろいろな水車」	<p>【使用されている素材】 厚紙、紙コップ、レースペーパー等</p> <p>【活動のタイプ】 主題先行の活動</p> <p>【活動内容】 子どもたちは話し合っってプロジェクトを考え「小鳥の遊園地」をデザインする事を決める。その中で水車についてアイデアを絵に描いたり、紙や粘土で模型をつくらしたりする。</p>	レッジョ・チルドレン著、ワタリウム美術館編、田辺敬子・木下龍太郎・辻昌宏・志茂こづえ訳、高城昭夫・友永文博・明石康正編（2012）、『子どもたちの 100 の言葉－レッジョ・エミリアの幼児教育実践記録』、日東書院、pp.198-201.
「木のプレスレット」	<p>【使用されている素材】 針金、紙、粘土</p> <p>【活動のタイプ】 主題先行の活動</p> <p>【活動内容】 子どもたちは木の観察から、木の輪郭に合うプレスレットをつくる事を決める。輪郭を針金で測り、それを紙に写して木について思い出す手がかりをつくる。紙面の輪郭に沿って粘土で葉の装飾をつくり、それを焼成したものを木の根元に飾る。</p>	同上書、pp.310-313.

容の指導法」に該当する大学授業の中に素材先行の活動を設定し、受講者が紙に親しむとともに質感や特性を実感的に理解することを意図した実践について報告する。

3. 本学授業科目「幼児の造形表現」における授業実践

3. 1. 授業科目の概要

本学の学部授業科目「幼児の造形教育」では、幼稚園教諭に求められる、保育（造形活動）に必要な基本的な指導方法の習得を目的としている。

全15回の授業の中では小麦粉粘土、梱包用緩衝材など多様な素材を用いた造形活動の体験を通して、保育者の造形体験を深める課題を設定した。

第2章でもふれたように本稿では、幼児の造形活動を2つのタイプに分類することを試みた。

まず1つ目のタイプは、表現する主題を先に明確に設定する事で素材を決定するタイプ。例えば保育室の季節の飾りを作るというテーマをもとに折り紙や色画用紙を選択したり、遠足の絵という主題を元に画用紙と絵の具を選んで絵を描いたりする。これらを主題先行の活動と定義する。次に2つ目のタイプは、素材から始まる造形表現として、素材との出会いが先にありその中で自由に発想し表現するタイプの造形活動。例えば、油粘土で自由に形を作って遊んでみたり、小麦粉粘土のように素材の触感から刺激受け、その特性の中で創造力を広げて表現を行ったりする。これを素材先行の活動と定義する。

全15回のうち第6・7回の授業では、後者のタイプに着目して和紙を使った課題を設定し、素材を感じることで生まれる造形体験の考察を行うこととする。

3. 2. 和紙と糊による「Dried drawing」の体験

第6・7回授業では、第1筆者（川口）の和紙を水糊で加工した作品「Dried drawing」（図1）という技法を用いて、受講者が素材体験を深める意義、そして幼児の

造形活動における素材の有効性を考察する。

受講者は、この技法の中で和紙が水糊を塗布することで起こる水性ペンの色の滲みや、和紙の質感の変化を体験できる。今回は、その素材の特徴を生かしてネックレスを作るというテーマを設定した。題材の概要は下記のとおりである。

実施日： 2018年11月21・28日
実施対象： 本学学部授業「幼児の造形表現」
受講者数： 25名（データ収集は24名）
題材名： 和紙でつくる「Dried drawing」ネックレス

学習目標： 和紙に水糊を塗布することで起こる、予想外の水性ペンの色の滲みや素材の変化を観察し、その質感を楽しみながら体験することを通して、紙という素材を実感的に理解する。

指導計画（第6・7回授業）：

	学習活動	指導上の留意点
第6回授業	和紙、水性ペンと水糊で制作した参考作品を鑑賞し、これらの素材がどのような質感や特性を持っているのかをイメージしながら、自分なりのネックレスをつくる。 素材・用具： 和紙、水糊、水性ペン、ポリプロピレン板（以下、PP板と表記）、塗布用のヘラ	
	①「主題先行の活動」と「素材先行の活動」、それぞれのタイプが持つ特性を理解する。	①2つの活動のタイプについて板書で整理するとともに、今までの経験を踏まえるよう促す。
	②和紙に水糊を塗布する前と後を見比べ、水性ペンのインクや、和紙の変化を観察する。	②「Dried drawing」（図1）の作品を提示し、和紙への描画・水糊の塗布について説明する。
	③A4サイズの和紙を半分に分けて切断し、水性ペンで和紙に描画していく（線、点、シンプルな模様・色で表現する。2種類制作）。	③水性ペンで和紙全体に色を置くように注意喚起する。点描で描くことで、滲み、色の変化を効果的に楽しむことができることを伝える。
	④PP板の上に和紙を置き、ヘラで水糊を均一に塗布して乾燥棚で乾かす（1週間）。	④和紙の上で起こる偶発的な色の変化を観察させ、染しめることを説明する（水糊の水分、糊の分量によって水性ペンの色の滲み方が変化する）。

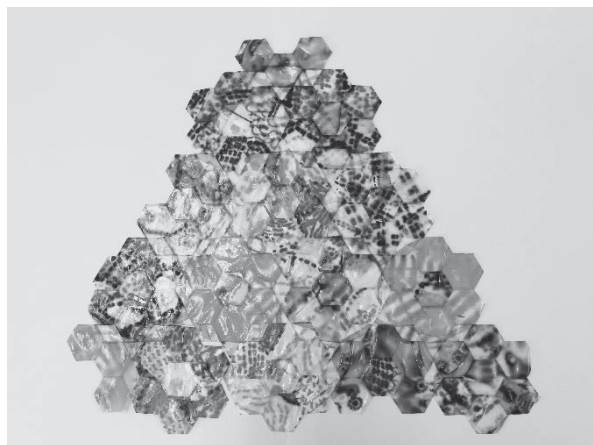


図1 「Dried drawing」
（川口奈々子「Dried patchwork」、2015年）

第7回授業	<p>和紙の美しさを生かしてネックレスをつくることを通して、和紙の素材の特徴を実感的に理解する。 素材・用具： はさみ、形のテンプレート、水入れのボウル</p>	
	①水糊が乾燥した和紙をPP板から外す。	①和紙の周りについた糊をハサミで切り取り接着する方法を演示する。
	②グループ内で乾燥した和紙の一部を交換するなど、お互いの作品を観察することで素材を理解する。	②和紙の質感、色のしみなど素材の変化を楽しめることを説明する。
	③ハサミで切る、手でちぎるなどして、乾燥した和紙をネックレスの形に繋げていく（接着は水のみ）。	③形のバリエーションを増やすため図形のテンプレートを用意する（円、四角、星、ひし形など）。

3. 3. 実践経過

第6回の授業では、素材から始まる造形活動という定義を明確にし、受講者に和紙という素材の特徴を観察するよう促した。「薄くて柔らかい」、「和紙は書道の時に使用するイメージが強い」など感想が述べられた。その上で、筆者が現代美術の領域で行なっている和紙を加工した作品（図1）を受講者に実際に示し、これから行う作品のイメージを持てるよう活動の手順を示した（図2）。

今回取り上げた「Dried drawing」という技法は、和紙に水性ペンで描画した後、水糊を塗布し乾燥させ、それぞれの材料の特徴を生かしながら素材の質感を変化させる技法である。なお、受講者は本題材に至る前に、折り紙を使用した造形活動を経験しており（第2・3回授業）、紙を「折る」「切る」「組み合わせる」等の一般的な技法を通した素材体験はすでに行っている。このため、本題材では和紙を「水糊によって湿らせる」「乾燥させる」等の技法体験の場を提供することによって、受講者の紙

に対する素材理解をさらに幅広いものにすることを意図した。

実際の授業では受講者に対して、水性ペンで描画した和紙に水糊を塗布後のものと塗布前のものを提示して、その色のしみの変化や、和紙の質感の変化を観察させた。塗布前の柔らかな和紙とは違い、塗布後はパリパリとした質感や透明感のある表面などその変化に驚きの声があった。今回はこの「Dried drawing」という技法を使って、保育の現場でも活用できる造形活動としてネックレスづくりを提案した。

受講者には、A4の和紙を2つに区切り、水性ペンで和紙の上に点、線、丸、四角などのシンプルな模様を描画することを説明した。和紙の上で水性ペンがしみ、色を重ねることにより、画用紙に描いた場合とは違う色彩表現が可能なることを体験できたと考えている（図3）。

2種類のオリジナルの模様を描いた後、和紙をPP板の上に置き水糊をヘラで塗布する。その水糊の水分により水性ペンの色がしみ、和紙は少し半透明に透ける様子を観察した。水糊の乾燥には半日以上かかるため、第6回授業の活動はここまでとした。

第7回の授業では、乾燥させた和紙をPP板から外し、受講者のそれぞれのグループで互いの和紙の変化を観察して話し合うことを促した。乾燥した和紙は、パリパリとした質感の変化や一部半透明になるなど、糊を塗布する前後での素材の変化を体感することができる。これは画用紙等の他種の紙では起こりえない効果であり、和紙を使った「Dried drawing」という技法の特徴である。そして一部の乾燥した和紙（以下、色紙と表記）を受講生相互で交換して、ネックレスをつくる上で色紙のバリエーションを増やしていくことを指示した。

水糊が塗布され乾燥した和紙は、水を付けることで水糊の部分が溶解して接着が容易に行えるところは、幼児の造形表現としては扱いやすい部分であるだろう。そして和紙という薄い素材は、ハサミで切るだけでなく、手でちぎるなどの加工も容易であり、保育の現場でこのような特徴も活用できることを提案した。



図2 「Dried drawing」の手順を指導する



図3 和紙に水性ペンで描画して糊を塗布する



図4 色紙を切り抜きネックレスにする



図5 受講者による作品例



図6 同左

受講者には、それぞれが制作した色紙の質感や色からイメージを広げて「〇〇のネックレス」という自分なりの主題を生成することを促した。色紙は一部を切り取ることで、その美しさを発見することができる(図4)。受講者は、素材の特徴を感じ取り、色の並びや繋げ方をそれぞれが工夫し華やかなネックレスが出来上がった(図5・6)。

3. 4. 記述の分析からみる受講者の実感的な素材理解

第7回授業の活動終了後、「紙を体験することを通して、『素材との出会いから始まる造形活動』の意義をどのように考えたか?」という教員からの問いに対する受講者による自由記述を収集した。この記述を分析することによって、受講者らが素材の特性等に関してどのように理解したのかについて考察することを試みる。

前述の問いに対する記述は、受講者24名から3816文字(受講者1名あたりの平均は159文字)を収集することができた。これらの文字データをテキストマイニングソフト(IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0)によって処理し、可視化したものが図7である²⁴⁾。図中には出現頻度6以上の語が示されており、それぞれの円の大きさは出現頻度の高さを表している(最頻は18名による出現)。また、円を結ぶ線は同じ受講者による自由記述の中で共起したことを示しており、線の太さは共起頻度

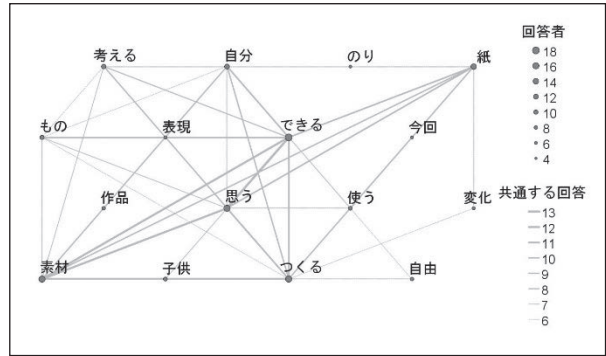


図7 テキストマイニングによって可視化した受講者の素材理解に関する傾向 (n=24)

の高さを表している(最頻は13名による共起)。それによると出現頻度が高いのは「できる(18名。以下、実数のみ記載)」、「つくる(16)」、「思う(16)」、「素材(16)」等であった。本研究の趣旨に基づき、「素材(16)」に着目すると、共起関係は「素材-できる(12)」、「素材-思う(12)」、「素材-つくる(11)」、「素材-紙(9)」、「素材-自分(9)」、「素材-考える(7)」等を確認できた。

自由記述に先だって受講者に投げかけた問いの内容を踏まえ、「素材-思う(12)」、「素材-考える(7)」に該当した自由記述を抽出し、具体的に読み進めたところ下記のような記述内容を確認することができた(一部を抜粋。下線は筆者による)。

受講者A

「身近にある和紙、水性ペン、水のりを使って素材にすることで、自分の周りにあるものすべてが素材になりうるという気づきにつながると考える。子どもたちはそういった気づきから、新たな素材を自ら見つけていけると思う」

受講者B

「いつもと違った使い方をすることで、素材の新たな性質を知ることができたり、新しい使い方に出会ったりすることができ点が表現の幅を広げてくれると思った。このような体験をすることで、また他の素材に出会った時も『違った使い方をしてみよう』と思えるようになるのではないかと思う」

身近な和紙・水糊を工夫して造形活動の中心的素材にするという体験は、「自分の周りにあるもの全てが素材になりうる(受講者A)」という気づきを促した。そして、「また他の素材に出会った時も『違った使い方をしてみよう』と思えるようになるのではないかと思う(受講者B)」との記述からは、今回の題材を通して、素材との出会いの重要性を実感的に理解できたことが示唆される。

受講者C

「同じ一枚の紙から、出来たネックレスは全く異なり、とてもおもしろかった。また、簡単な素材を使うことで、作業工程が難しくなく、誰でも自分のイメージを表現しやすく良かったと思った。主題決定から始まる表現は、目的をもって造形活動を楽しむことができるが、素材との出会い

から始まる表現は、活動の幅が広く、より自由に楽しむことができると思った」

受講者D

「自分が手を加えることにより、素材が変化していくことに気付くきっかけとなっているように考える。また、和紙に描いた模様を素材として、自分だけのオリジナルネックレスを作ることは、イメージする力や、発想力を養うことにもつながるだろう。以上の2点から、素材との出会いから始まる表現には大切な意義があると考える」

水性ペンと水糊で加工された和紙から触発され、そこから素材の変化や質感の面白さや美しさを見出し、創造力を刺激され造形活動を行う経験を通して、「素材との出会いから始まる表現は、活動の幅が広くより自由に楽しむことができると思った（受講者C）」、「また和紙に描いた模様を素材として自分だけのオリジナルネックレスを作ることは、イメージする力や発想力を養うことにもつながるだろう（受講者D）」等のコメントにつながった。これらの記述から、素材との出会いを契機として発想を広げ主題を生成させてゆく「素材先行の活動」は、受講者にとって造形活動の幅をより自由に広げ、表現を楽しむことができるタイプの活動方法として理解されたと推察している。

4. 結語

本研究の目的は、幼児の造形活動における素材の役割を明確にし、保育者を目指す大学生が素材を実感的に理解するための方法とその効果を明らかにすることであった。この研究目的に対応した成果として、2点をあげることができる。

1点目の成果は、造形活動における素材の位置づけについて活動のタイプから2つに分類し、特に素材先行の活動での素材の役割を明確化した点である。保育者養成のカリキュラムにおいて、造形活動のタイプを端的に分類して提示することによって受講者の素材理解が促進されたと考えている。この成果は前章で紹介した受講者による自由記述にも表れている。そして2点目の成果として、受講者らの紙に対する素材理解を図ることができた点があげられる。「Dried drawing」という技法を体験することを窓口としているが、受講生の自由記述からは紙のみの素材理解にとどまらない、他の素材と出会った際にも発揮される「素材に関する見方・考え方」の習得につながったことが示唆されている。受講生らがこのような素材観を持つに至ったのは、紙という素材を実感的に理解した成果であると解釈される。

保育者養成における素材理解を研究する上での今後の展望としては、何よりも多種多様の素材を対象とした検討を進めることが必要であると考えられる。これまで素材としての光・映像を対象とした考察²⁵⁾を行ってきた経緯は

あるが、例えば自然物や身近材等を素材として扱う場合の特徴等についても検討を進めたい。そして大学授業科目での指導において、素材先行の造形活動の事例として提案していきたいと考えている。

付記

本学授業「幼児の造形表現」（2018年度）を受講する皆さんから、自由記述課題のテキストデータの提供および写真撮影の承諾をいただきました。心より感謝申し上げます。

本研究の開始にあたり奈良教育大学「人を対象とする研究倫理審査委員会」の審査（受付番号 30-16）を受審し、本研究遂行に関して承認を得ている。

注

- 1) 文部科学省（2018）,『幼稚園教育要領解説』,フレーベル館, pp. 14-15.
- 2) 同上書, p. 239.
- 3) 文部科学省ウェブサイト（2017）,「幼稚園教育要領解説」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/04/25/1384661_3_3.pdf（2018.11.25 アクセス）.
- 4) 幼児造形における素材先行の活動に関連して、既記下記文献等での指摘がある。
花篤實・岡田敬吾編（1994）,『造形表現 理論・実践編』,日本文教出版, p. 115.
松岡宏明（2009）,「幼児の造形指導」,大橋功・新関伸也・松岡宏明・藤本陽三・佐藤賢司・鈴木光男編『美術教育概論』,日本文教出版, pp. 72-73.
- 5) 文部科学省, 前掲書, p. 239 および p. 246.
- 6) 佐藤諒（1964）,「紙製作材料の基礎知識（幼児のための教材研究）」,『幼児の教育』第63巻 第7号, 日本幼稚園協会, pp. 10-15.
- 7) 佐藤諒（1964）,「紙製作材料の基礎知識（二）（幼児のための教材研究）」,『幼児の教育』第63巻 第9号, 日本幼稚園協会, pp. 16-20.
- 8) 佐藤諒（1964）,「紙製作材料の基礎知識（三）（幼児のための教材研究）」,『幼児の教育』第63巻 第10号, 日本幼稚園協会, pp. 18-22.
- 9) 佐藤諒（1964）,「紙製作材料の基礎知識（四）（幼児のための教材研究）」,『幼児の教育』第63巻 第12号, 日本幼稚園協会, pp. 16-20.
- 10) 佐藤諒（1965）,「紙製作材料の基礎知識（五）（幼児のための教材研究）」,『幼児の教育』第64巻 第1号, 日本幼稚園協会, pp. 45-49.
- 11) 佐藤諒（1965）,「紙製作材料の基礎知識（六）（幼児のための教材研究）」,『幼児の教育』第64巻 第2号,

- 号, 日本幼稚園協会, pp. 13-18.
- 12) 佐藤諒 (1965), 「紙製作材料の基礎知識 (七) (幼児のための教材研究)」, 『幼児の教育』第 64 巻 第 3 号, 日本幼稚園協会, pp. 40-45.
- 13) 佐藤諒 (1965), 「紙製作材料の基礎知識 (八) (幼児のための教材研究)」, 『幼児の教育』第 64 巻 第 5 号, 日本幼稚園協会, pp. 26-31.
- 14) 田中陽子 (1972), 「幼児の造形活動における紙の可能性 (1)」, 『山梨県立女子短期大学紀要』第 5 巻 第 2 号, 山梨県立女子短期大学, pp. 33-46.
- 15) 鈴木安由美 (2018), 「幼児造形における『紙工作モビール』指導法の研究」, 『瀬木学園紀要』第 12 号, 愛知みずほ大学, pp. 98-102.
- 16) 裴珉卿 (2012), 「幼児の発展的表現活動を支える教材研究 様々な紙による遊びの広がり」, 『学校教育学会誌』第 17 号, 北海道教育大学, pp. 1-13.
- 17) 堀館秀一 (2017), 「紙素材を用いた幼児の造形活動の指導法に関する実践的研究 体験的に考察する学習活動を中心として」, 『教育学論集』第 69 号, 創価大学教育学部・教職大学院, pp. 29-41.
- 18) 同上論文, p. 31.
- 19) 吉岡千尋・竹内晋平 (2018), 「レッジョ・エミリア・アプローチにみる光・映像を扱った造形活動の教育的意義 情報機器を活用した『幼児の造形表現 (保育内容の指導法)』への展開」, 『次世代教員養成センター研究紀要』第 4 号, 奈良教育大学次世代教員養成センター, pp. 69-76.
- 20) 佐藤学監, ワタリウム美術館編 (2011), 『驚くべき学びの世界 -レッジョ・エミリアの幼児教育』, 東京カレンダー, pp. 248-253.
- 21) 同上書.
- 22) レッジョ・チルドレン著, ワタリウム美術館企編, 田辺敬子・木下龍太郎・辻昌宏・志茂こづえ訳, 高城昭夫・友永文博・明石康正編 (2012), 『子どもたちの 100 の言葉 -レッジョ・エミリアの幼児教育実践記録』, 日東書院.
- 23) 佐藤, ワタリウム美術館, 前掲書, p. 116.
- 24) テキストマイニングソフトによる可視化に当たっては、自由記述の文字データに対して下記の事前処理を行った。
 - ・文脈から同義での使用と判断される語を統一 (例) 「作る」「つくる」を「つくる」に統一
 - ・素材理解の分析とは無関係と判断される接続詞・助詞等の語を削除 (例) 「また」「より」等を削除
- 25) 吉岡・竹内, 前掲論文.